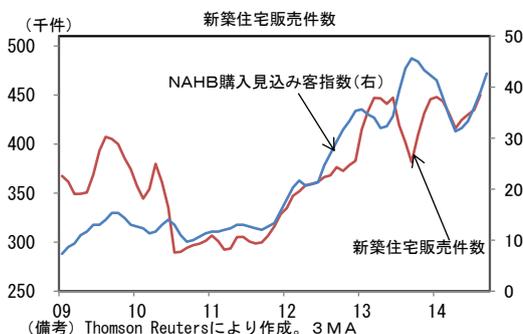


【海外株式市場・経済指標他】 ～新築住宅販売：例によってサプライズ～

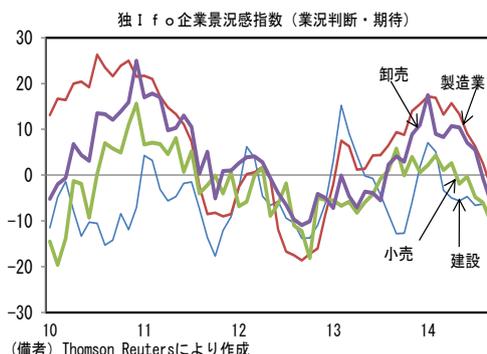
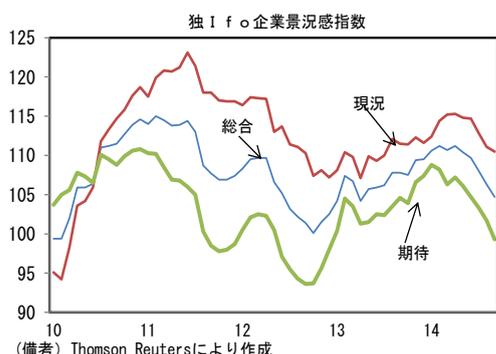
- ・ N Y ダウ平均株価は前日比+154.19 ドル の17210.06 ドル で取引終了。
- ・ 8月新築住宅販売件数は前月比+18.0% (50.4万件) と市場予想 (43.0万件) を上回ったうえ、前月分は符号逆転を伴い上方修正 (▲2.4%→+1.9%)。単月実績としては2008年5月以来の水準に到達。振れを均すため3MAでも4ヶ月連続の増加と基調的な回復が継続。先行指標のNAHB住宅市場指数が示唆していたとおり非常に強い内容となった。先行きも雇用・所得環境が緩やかに持ち直すなか、モーゲージ金利の低位安定を支えに回復を継続する見込み。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

【外国為替相場・債券市場】～Ifo：ドイツの強さはどこへ？～

- ・前日のG10通貨はUSDが強く、CHF、EURなど欧州通貨が全般的に軟調。USD/JPYは米指標をきっかけに上昇を開始、米国時間午後109を回復。EUR/USDも1.28を割れた。日本時間に入ってもUSD/JPYの上昇基調は崩れず、109.30近傍まで水準を切り上げる場面もみられた。
- ・米10年金利は+3.6bpの2.564%。米指標上振れを受けて金利上昇。欧州債市場は総じて堅調。弱い独Ifo指数が意識され、当初、独10年金利は1%を下回る水準で推移したが、リスク選好が強まるなかで1%を回復し、▲0.9bpの1.004%で引けた。経済指標は9月Ifo企業景況感指数が104.7と市場予想(105.8)を下振れて5ヶ月連続悪化。2013年4月以来の低水準に落ち込んだ。内訳は現況(111.1→110.5)、期待(101.7→99.3)が揃って低下。業種別では製造業を中心に期待指数が悪化幅拡大を伴って下方屈折しており内容が悪い。ここもとのEUR安・金利低下は未だ実体経済を刺激していないということだろう。もっとも、先行きに関してはウクライナ情勢の緊張緩和や米経済の基調的な強さが追い風となることで一段の悪化は回避される見込み。

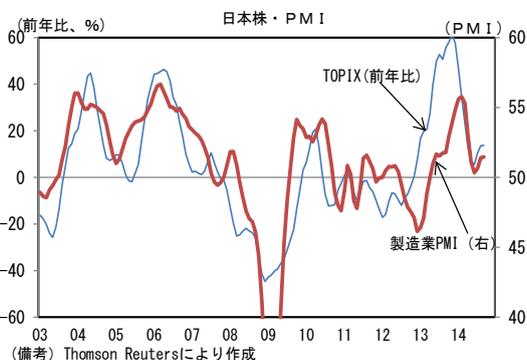


【国内株式市場・経済指標他】～明日のCPIに注目～

- ・日本株は欧米株高、USD/JPY上昇を受けてギャップアップ。配当取りも意識された。
- ・明日は為替の先行指標としてCPIに注目。目下、足もとの円安による輸入物価上昇予想が期待インフレ率上昇に寄与、それが実質金利低下予想を補強することで“円安が円安要因”になっている。CPIが予想を大幅に下振れなければ、市場参加者のインフレ期待が保たれることで実質金利に低下圧力がかかり続け、目下の円安基調をサポートするだろう。

【注目点】～短観が日本株ラリーをサポートしよう～

- ・多くの市場参加者が日銀短観(業況判断DI)の先行指標として重要視しているロイター短観の製造業DIは9月に10ptも急落(18日発表)。元来、振れの大きい統計とはいえ7-9月期のリバウンド継続に疑問を呈した。日銀短観の悪化を見込むコンセンサスは(大企業製造業業況判断DI+12→+10)はこれを反映したものだろう。しかしながら、同じく日銀短観と連動性の強いPMI(Markit、24日発表)は51.7と前月から僅かな低下に留まり、ロイター短観が喚起した警戒感を一部払拭。6月対比では寧ろ改善しており、これに従えば日銀短観が上向き可能性すらある。筆者は日本株の先行(or一致)指標として日銀短観を重視。日銀短観が一段と落ち込まなければ、目下の株高が修正を迫られる可能性は低いと考える。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。